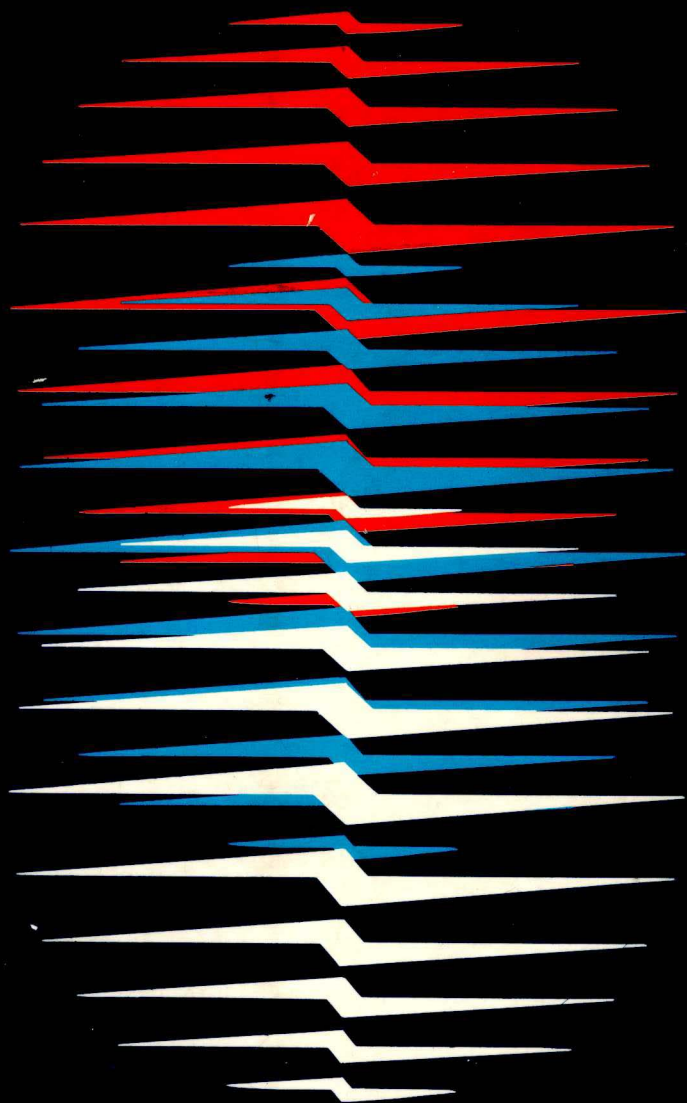


金融經濟讀本

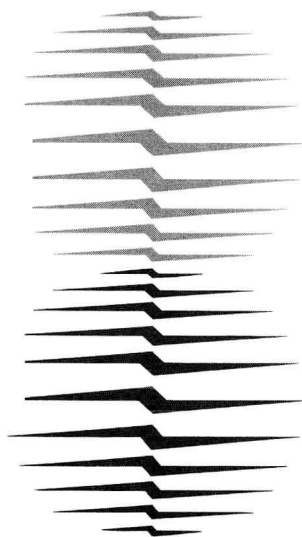
阿達哲雄著



經濟法令研究会

金融經濟讀本

阿達
哲雄著



經濟法令研究会

著 者 略 歴

昭和2年 福島市に生まれる
 昭和27年 東京大学法学部卒業
 同 年 日本勧業銀行入行
 昭和46年 第一勧業銀行調査部次長
 昭和52年 同行・調査部長
 昭和56年 同行・監査役就任、今日に至る

主要著書 『変わる成長企業』（日経新書）
 『現代の銀行』（日経文庫）
 『入門消費者金融』（近代セールス社）
 『経営用語辞典』（ダイヤモンド社）
 『金利』（金融財政事情研究会）
 『銀行』（金融財政事情研究会）
 『金利の話』（東洋経済新報社）
 『金融』（銀行研修社）

金 融 経 済 読 本

著 者 阿達 哲雄
 発行者 下平 進

昭和58年4月1日 初版発行
 昭和58年5月14日 2刷発行
 昭和58年6月17日 3刷発行
 昭和59年4月27日 4刷発行

発行所 財経経済法令研究会
 〒162 東京都新宿区市谷本村町35番地
 電話 03-267-4811(代表)
 振替 東京 0-36665

定価 2300円〈検印省略〉

乱丁・落丁本はお取替えいたします。

©T. Adachi 1983 ISBN4-7668-1021-X 印刷 真珠社/製本 島崎製本

はしがきに代えて

先般、ニューヨーク、ワシントン、シカゴ、ロサンゼルス等米国の主要都市を訪れる機会をもちました。行く先ざきで、「米国の印象」を尋ねられました。私は、「どの国にも光と影の部分がある。日本の対米観はやや米国の影の部分に、米国の対日観は逆に日本の光の部分に焦点をあてすぎではないか」と申しました。そして「陽の当て方によって、光の部分は影に、影の部分は光に転化することに留意したい」と日頃の私なりの考え方をのべ、それなりの共感をうることができました。

今日、米国は多少明るい兆しがみえてきたとはいえ、景気の長期停滞から失業率は記録的高水準を呈し、社会的フラストレーションが募っているようです。かつて世界を制覇していた米国自動車産業の停滞に象徴されるように、生産性の低下、品質管理の遅れから米国産業の国際競争力がひと頃にくらべ低下を余儀なくされている面も否めません。また、大都市の治安の悪さを指摘することも容易でしょう。

唐津一氏は、『一九九〇年 日本のシナリオ』のなかで、二三年前に訪れた米国はなんと素晴らしい国であったかを述べられながら、洋服のボタンをひとつかけちがえると、連鎖的に過誤が繰り返されることを引用し、米国の経済社会の悪化ぶりにふれられています。私も一八年前の米国を知っていますが、今回訪れてみて、この間の落差の大きさに驚いています。六〇年代のあの栄光を知れば知るほど、七〇年代そして八〇年代に入った今日までの米国経済社会の悪化ぶりが目につくといえるのかも知れません。しかし、こうした側面だけでもし米国の力を評価したとしたならば、それは同時に大

きなまちがいを犯すことになりました。むしろ、最近の傾向に徴していえば、そうした謬見に落ち入る危険にもっと目を向ける必要があると思います。レーガノミックスは思惑どおりの成果をあげていないとしても、レーガンの強い米国への復讐の意気込みは無視できません。米国産業の力が弱まっているとはいえず、先端技術分野、基礎研究部門における研究層の厚みという点ひとつをとってみても、決してその力を侮れないはずです。経済社会の運営がかならずしもうまくいっていない面があるからといって、陽気で、健全な米国人の生活が失われているような受け止め方は妥当ではありません。米国はいまでも世界で最大、最強の国であることを直視すべきでしょう。

もちろん、他人は自分の鏡であり、誤ちを繰り返さないよう心がけることはたいせつです。よく一人当り公園面積でわが国は欧米先進国にくらべ見劣りするといわれますが、広い公園があっても安心してくつろげないのでは意味はありません。むしろ狭いながらも、みんな伸び伸びとエンジョイできる空間をもつことがたいせつなのではないでしょうか。

ともあれ、いま、日本は素晴らしい国であると評価できると思いますが、洋服のボタンのかけちがいの危険から解放されているわけではないことを、この際、声を大にして主張しておきたいと思います。財政赤字問題、国際間の調整問題、国内の教育問題などその対応をまちがえれば、そこにたいへんな危険がまちかまえていることに気づくべきだと思います。ボタンのかけちがいに落ち入らないためには、一人ひとり良識をもち、良識に従って行動することが必要なのではないのでしょうか。本書が良識形成に多少なりとも貢献できるとしたなら、著者の無上のよろこびであります。

昭和五十八年三月

著者 識す

目 次

はしがきに代えて

プロローグ／経済・金融知識はなぜ必要か

3

第Ⅰ章 経済動向の捉え方

7

1 経済成長と景気変動

10

国民所得の概念：10／景気循環：12／景気動向指数と戦後の景

気循環：15

▽確認を要するポイント

16

2 経済見通し

17

経済予測：17／計量モデルによる予測：18／段階的接近法による予測：20／生産活動と景気：21／設備投資と景気：23／消費動向と景気：25／財政の景気調整機能：28／租税政策と景気

計の基礎知識	36
▽確認を要するポイント	34
〔補講〕個人消費に関する理論仮説	33
…29／經常海外余剰の推計	33
…31／海外経済動向の調査	33
平均値の虚像と実像／実質値のもつ虚構性／指数化の代表的な算式	45
▽確認を要するポイント	46
現代のインフレーション	47
測り方	50
卸売物価指数の仕組み	50
／消費者物価指数の仕組み	51
／卸売物価指数と消費者物価指数との関係	53
▽確認を要するポイント	54

2	物価の変動要因	55
---	---------	----

3	インフレとその防止策	63
	インフレとは……55／需給要因……56／コスト要因……57／海外要因……59／貨幣的要因……60	
	〔補講〕スタグフレーションとマネタリスト……62	
	▽確認を要するポイント……62	

	インフレの影響……63／インフレ防止策……64／インデクセーシヨ ン……65
	〔補講〕インデクセーシヨンの反対論……67
	▽確認を要するポイント……67

第3章	国際経済と国際金融	69
-----	-----------	----

1	国際経済と国際分業論	72
---	------------	----

	国際経済の展望と課題……72／国際分業論……74
	〔補講〕ヘクシャー・オリーンの定理……76
	▽確認を要するポイント……77

2	国際収支の見方	78
---	---------	----

国際収支とは	78
／国際収支統計とは	80
／国際収支統計の見方	82
／外貨準備	83

▽確認を要するポイント	84
-------------	----

3	国際金融市場とユーロ市場	85
---	--------------	----

国際金融市場	85
／ユーロ市場の成立	86
／国際金融不安とユーロ市場等の安全性	87

▽確認を要するポイント	89
-------------	----

4	国際通貨制度と為替相場	90
---	-------------	----

国際流動性の問題	90
／国際収支調整のメカニズム	92
／為替相場とその変動要因	94

〔補講〕IMFの機能	95
------------	----

▽確認を要するポイント	96
-------------	----

第4章	財政の仕組みと役割	97
-----	-----------	----

1	公共部門と公共サービス	100
---	-------------	-----

2	財政制度	104
	財政と予算制度	104
	／会計年度	105
	／一般会計と特別会計	105
	／政府関係機関予算	107
	／財政投融资	108
	／地方財政の構造	108
	／国家財政と地方財政	112
	▽確認を要するポイント	112
3	租税制度	113
	一般会計歳入の構成	113
	／租税	114
	／わが国の租税体系	115
	▽確認を要するポイント	117
4	公債政策	118
	公債発行制度	118
	／国債の種類	121
	／国債管理政策	122
	▽確認を要するポイント	125
5	財政の課題と展望	126
	財政の中期展望と歳入欠陥	126
	／財政体質の悪化の影響	128
	／日米欧の財政再建	130

第5章 通貨の基礎知識

▽確認を要するポイント……………132

1 通貨の種類と機能……………136

現金通貨と預金通貨……………136／発券制度……………137／通貨の機能……………138

〔補講〕金本位制……………139

▽確認を要するポイント……………139

2 マネー・サプライ……………140

マネー・サプライとは……………140／マネー・サプライの増減要因……………141

／マネー・サプライの重視……………142

〔補講〕適正な通貨供給量／アメリカの新金融調節方式……………145

▽確認を要するポイント……………146

3 通貨価値……………147

物価と通貨価値……………147／通貨の対外価値……………148／名目金利と実質金

利……………150／デノミネーション……………150

▽確認を要するポイント……………151

第6章 経済循環と金融

153

1 経済循環とマネー・フロー

156

産業的流通と金融的流通……156／部門別貯蓄投資バランスと資金
 循環勘定……157／近年のマネー・フローの変化……159

▽確認を要するポイント……

163

2 金融政策の目的と手段

164

財政政策と金融政策……164／金融政策の目標と中央銀行の目的
 ……165／公定歩合操作……166／支払準備率操作……167／公開市場操作
 ……169／窓口指導……171／金融政策の課題……171

▽確認を要するポイント……

173

3 財政と金融との関係

174

財政と金融とのかかわり……174／財政資金対民間収支……175／公債
 発行とマネー・サプライ……176／金融の分野における官業の位置
 づけ……180／郵貯問題の所在……182

▽確認を要するポイント……

185

第7章 金融市場

187

1 金融市場とは

190

金融市場の分類……190／金融市場の動き……191／資金需給実績表の

見方……192

▽確認を要するポイント……194

2 短期金融市場

195

わが国の短期金融市場の特徴……195／変貌する短期金融市場……196

／コール市場……198／手形売買市場……200／現先市場……201／CD市

場……202／TB市場……204／外貨預金市場等……205

▽確認を要するポイント……206

3 証券市場

207

証券市場の位置づけ……207／有価証券の種類……208／株式市場……208

／公社債市場……212

▽確認を要するポイント……214

第8章 金 利

1 金利の計算方法 218

- 単利と複利 218
- 日歩と年利 219
- 両端入りと片落とし計算 220
- 債券の利回り 220
- 株式の利回り 222
- ▽確認を要するポイント 223

2 金利機能と金利政策 224

- 金利の機能 224
- 金利政策とは 226
- 金利の自由化 226
- ▽確認を要するポイント 229

3 金利の決まり方 230

- 利息制限法と出資法 230
- 臨時金利調整法と預金金利 231
- 臨時金利調整法と貸出金利 232
- 金利体系とわが国主要金利 233
- 公定歩合と短期金融市場金利 235
- 公定歩合と短期貸出金利 236
- 短期金利と長期金利との関係 237
- 公社債利回りの変動要因 239
- 国内金利と海外金利 240
- ▽確認を要するポイント 242

4	金利と税金	243
---	-------	-----

利子所得に対する課税	243
／配当所得に対する課税	245
／割引債の償還差益に対する課税	245
／現行制度上の問題点	246

▽確認を要するポイント	248
-------------	-----

第9章	金融制度と金融機関	249
-----	-----------	-----

1	わが国の金融制度の特徴	252
---	-------------	-----

長短金融の分離	252
／証券業務の兼営禁止	254

▽確認を要するポイント	256
-------------	-----

2	銀行法改正と日本的金融風土の変質	257
---	------------------	-----

銀行法の改正	257
／金融の自由化	258
／金融の証券化	260
／金融の国際化	262

融の国際化	262
-------	-----

▽確認を要するポイント	263
-------------	-----

3	金融機関の種類と機能	263
---	------------	-----

日本銀行	264
／全国銀行	265
／中小企業金融機関	267
／政府金融機関	270
／その他の金融機関	275

融機関	270
／その他の金融機関	275

第10章 金融機関経営の課題と展望

▽確認を要するポイント……………278

1 銀行の機能と役割……………282

信用媒介機能……………282／信用創造機能……………283／決済機能……………284／銀行の

役割……………285

▽確認を要するポイント……………286

2 普通銀行の業務範囲……………287

固有業務……………287／付随業務……………290／周辺業務……………291／垣根論争……………292

▽確認を要するポイント……………294

3 企業金融と企業取引……………295

企業金融とは……………295／わが国企業の資金調達と運用……………297／企業金

融上の問題点……………299／産業構造の変化と取引基盤の強化……………301

▽確認を要するポイント……………302

4 消費者金融と家計取引……………303

消費金融小史……	303	銀行消費者金融の特徴……	304	消費者金融の今後と銀行の役割……	305
▽確認を要するポイント……	309				
5 国際金融業務の新展開 ……	310				
国際化の諸段階……	310	今後の方向と課題……	311		
▽確認を要するポイント……	313				
エピローグ／今日の危機の克服をめざして……	314				
参考文献……	317				
索引……	317				
卷末……	317				